

令和3年度 年間授業計画

東京都立足立西高等学校

| | | | |
|-----|---|-----|------------------|
| 科目 | 国語総合 | 4単位 | 教科担当 倉部 平野 |
| 対象 | 1年1組～5組 | | |
| 教科書 | 新編国語総合（東京書籍） | | |
| 副教材 | 新訂五版新訂総合国語便覧（第一学習社）、新編国語総合学習課題ノート（東京書籍）、常用漢字ダブルクリア四訂版（尚文出版）、現代文ウィニングクリア1（尚文出版）、古典古文・漢文ウィニングクリア1（尚文出版） | | |

| | |
|----|--|
| 目標 | 国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。 |
|----|--|

| 学期 | 月 | 時間 | 単元 | 内 容 | 具体的な指導目標 |
|-------------|----|----|---------------------|-------------------------------|-------------------------------------|
| 1 学 期 | 4 | 32 | 随筆の語りを読む。 古文入門 | 『ルリボシカミキリの青』 古文に親しむ『児のそら寝』 | ・書き表し方に着目する。 ・古文の決まりを理解する。 |
| | 5 | | 小説の構造を読む。 漢文入門 | 『ドライ・クリーニング』 訓読の基本『借虎威』 | ・情景描写を理解する。 ・漢文の決まりを理解する。 |
| | 6 | | ものの見方を広げる。 古文入門 | 『無彩の色』 『絵仏師良秀』 | ・論理の構造に着目する。 ・話の面白さを味わう。 |
| | 7 | | 詩の言葉を味わう。 史話 | 『二十億光年の孤独』 『魏武捉刀』 | ・修辞に着目する。 ・展開に即して内容を理解する。 |
| 2 学 期 | 9 | 39 | 語り手と視点へのまなざし。 随筆 | 『羅生門』 『徒然草』 | ・語りの構造を理解する。 ・作者の考えを読み取る。 |
| | 10 | | ものの見方を深める。 史話 | 『里山物語』 『王昭君』 | ・対比の構造を読み取る。 ・登場人物の生き方や考え方を読み取る。 |
| | 11 | | 短歌・俳句を読む。 物語 | 『その子二十』『春風や』 『伊勢物語』 | ・修辞に着目する。 ・歌物語に親しむ。 |
| | 12 | | 自己へのまなざし。 唐詩 | 『鍋洗いの日々』 『春暁』他 | ・叙述の構造に着目する。 ・唐詩を味わう。 |
| 3 学 期 | 1 | 14 | 問いを立てながら読む。 物語 | 『夢十夜』 『木曾の最期』 | ・描かれ方に着目する。 ・和漢混交文を味わう。 |
| | 2 | | 「美しさ」を哲学する。 論語 | 『美しさの発見』 『論語』 | ・論理の展開に着目する。 ・孔子の思想から自分の考えを深める。 |
| | 3 | | 「自立」を哲学する。 詩歌 | 『真の自立とは』 『折々のうた』 | ・根拠に着目して読む。 ・和歌修辞 |

| | |
|----|--|
| 評価 | 観点（評価方法） |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 関心・意欲：学習内容に関心を持ち、意欲的に取り組む（発言・態度・暗誦発表・作品等） ・ 技能：「話す・聞く」「読む」「書く」（発表、作品、小テスト、学習課題プリント、定期考査など） ・ 知識・理解：語彙、古典文法に関わる知識（小テスト・学習課題プリント・定期考査など） |

| 学期 | 月 | 時間 | 単 元 | 内 容 | 具体的な指導目標 |
|-------------|----|----|----------------------|--------------------------------|---------------------------------|
| 1 学 期 | 4 | 32 | 俳句・評論（一） 古文入門 | 『春風や』『無彩の色』 古文に親しむ『児のそら寝』 | ・ 叙述に即して的確に読む ・ 古文の決まりを理解する |
| | 5 | | 随筆（一） 漢文入門 | 『ルリボシカミキリの青』 訓読の基本『借虎威』 | ・ 論理構造に着目する ・ 漢文の決まりを理解する |
| | 6 | | 小説（一） 古文入門 | 『ドライ・クリーニング』 『絵仏師良秀』 | ・ 登場人物の心理描写 ・ 話の面白さを味わう |
| | 7 | | 評論（一）・スピーチする 史話 | 『未来をつくる想像力』 『魏武捉刀』 | ・ ものの見方を広げる ・ 展開に即して内容を理解する |
| 2 学 期 | 9 | 39 | 短歌・小説（二） 随筆 | 『その子二十』・『ほおずきの花束』 『徒然草』 | ・ 韻文を味わう ・ 作者の考えを読み取る |
| | 10 | | 働くということ・実用文を書く 史話 | 『鍋洗いの日々』 『王昭君』 | ・ 語彙を広げる ・ 登場人物の生き方や考え方を読み取る |
| | 11 | | 小説（二） 物語 | 『羅生門』 『伊勢物語』 | ・ 情景と心理描写 ・ 歌物語に親しむ |
| | 12 | | 小説（二）・働くということ 唐詩 | 『羅生門』・『手技に学ぶ』 『春暁』他 | ・ 情景と心理描写 ・ 唐詩を味わう |
| 3 学 期 | 1 | 14 | 詩・評論（二） 物語 | 『二十億光年の孤独』・『美しさの発見』 『木曾の最期』 | ・ 内容の描かれ方 ・ 和漢混交文を味わう |
| | 2 | | 随筆（二）・意見文を書く 論語 | 『里山物語』 『論語』 | ・ 自己との対比 ・ 孔子の思想から自分の考えを深める |
| | 3 | | 小説（三）・評論（二） 詩歌 | 『夢十夜』・『真の自立とは』 『折々のうた』 | ・ 批評により考えを深める ・ 和歌修辞 |

令和3年度 年間授業計画

東京都立足立西高等学校

| | | | |
|-----|-------------------------------|--------------|-------------|
| 科目 | 地理A | 2単位 | 教科担当者 稲見 |
| 対象 | 第1学年 | | |
| 教科書 | 高等学校新地理A 標準高等地図—地図でよむ現代社会— | 帝国書院 帝国書院 | |
| 副教材 | 高等学校地理白地図 帝国書院 | | |

| | |
|----|--|
| 目標 | 地理的な見方や考え方を育成し、また、地理的技能を身につけさせ、国際社会において主体的に生きる資質を養う。 |
|----|--|

| 学期 | 月 | 時間 | 単元 | 内容 | 具体的な指導目標 |
|-------------|----|----|---------------|-----------------------------|--------------------------------------|
| 1 学 期 | 4 | 26 | 地球上の位置と国家 | 地表面のとらえ方と球面上の位置 | 作業的・体験的な学習を行い、基礎・基本となる学力を定着させる。 |
| | 5 | | 地球上の位置と国家 | 国家と地域区分 日本の領域と領土問題 | 同上 |
| | 6 | | グローバル化が進む世界 | 貿易、交通、通信、観光 | 世界のあらゆる結びつきを理解させる。 |
| | 7 | | 自然災害と大地形 | 地震、火山 | 世界の大地形と自然災害の関連を理解させる。 |
| 2 学 期 | 9 | 28 | 生活と気候のかかわり | 雨温図の読み方と、各気候区分の特徴 | 地域の気候の特徴を生活、文化と照らし合わせながら理解する。 |
| | 10 | | 世界の農業 | 農牧業の立地条件 おもな農作物 農業の特徴 | 農作物の分布、地域による農業の特徴を気候や地域の特徴と合わせて理解する。 |
| | 11 | | 世界の工業、エネルギー問題 | エネルギーの種類 各種工業の特徴 | エネルギーの種類と分布、変遷、工業の特徴を理解する。 |
| | 12 | | 世界の環境問題 | さまざまな環境問題 | 現在、地球上で起きているさまざまな環境問題の課題を理解させる。 |
| 3 学 期 | 1 | 16 | 世界の都市・居住問題 | 都市への人口集中と諸問題 | 現代の地理的課題を地理的視野から考察させる。 |
| | 2 | | ヨーロッパ、アメリカ地誌 | ヨーロッパの文化と生活 アメリカの文化と生活 | 各地域の文化、生活の特徴を理解する |
| | 3 | | アジア地誌 | 東アジア、東南アジア、南アジアの文化と生活 | 同上 |

| | |
|----|--|
| 評価 | (観点・方法) 各学期の定期考査の得点、作業プリント等の提出物の状況、授業態度を総合的に評価する。 |
|----|--|

令和3年度 年間授業計画

東京都立足立西高等学校

| | | | |
|-----|------------------------------|------|-----------------------------|
| 科目 | 数学 I | 3 単位 | 教科担当 者 小萱 須江 水谷 |
| 対象 | 第1 学年 | | |
| 教科書 | 改訂版 新編 数学 I (数研出版) | | |
| 副教材 | 改訂版 Study-up ノート 数学 I (数研出版) | | |

| | |
|----|--|
| 目標 | 中学校までの具体的な事象の考察を通して物事を考えることからさらに発展させ、思考力を身に付けさせる。図形の計量の基本的な性質の理解を図る。 |
|----|--|

| 学期 | 月 | 時間 | 単 元 | 内 容 | 具体的な指導目標 |
|------|----|----|-----------------------|--|--|
| 1 学期 | 4 | 39 | 数と式 | 多項式の加法と減法 多項式の乗法 | 展開では3次までの公式を扱い、変数 x と変数 a の定着を図る。 |
| | 5 | | 数と式 | 因数分解 実数 根号を含む式の計算 | 因数分解の複雑なものに深入りしないようにする。 数の拡張を理解させる。 |
| | 6 | | 数と式 1次不等式 集合と論証 | 1次方程式と1次不等式 命題と条件 論証 | 絶対値の基本的概念を理解させ、記号については徐々に慣れさせる。 |
| | 7 | | 集合と論証 2次関数 | 論証 2次関数のグラフ | 数式の変形が中心となる証明問題の定着を図る。関数やグラフの意味を考察できるようにする。 |
| 2 学期 | 9 | 42 | 2次関数とそのグラフ | 関数とグラフ 2次関数のグラフ | 2次関数の一般形を考える前に平方完成した形のグラフの理解を深める。 |
| | 10 | | 2次関数とそのグラフ | 2次関数の最大・最小 | 平方完成した形のグラフと一般式との関係について重点的に指導する。 |
| | 11 | | 2次方程式・2次不等式 | 2次方程式・2次不等式の解法 グラフとの関係 | 2次方程式・2次不等式の解法を定着させる。 判別式の定着を図る。 |
| | 12 | | 2次不等式 三角比 | 2次不等式の応用 三角比 | 定義域と値域について理解を徹底させる。 三角形の比について生徒の理解があるか確認する。 |
| 3 学期 | 1 | 24 | 三角比 正弦定理と余弦定理 | 三角関数の相互関係 三角比の拡張 正弦定理 | 直角三角形を用いて三角比の定着を確認する。 |
| | 2 | | 正弦定理と余弦定理 図形の計量 | 余弦定理 正弦定理と余弦定理の応用 | $A=B=C$ の形の等式の処理について理解が十分か確認する。 |
| | 3 | | 図形の計量 データの分析 | 三角形の面積 相似な図形の面積・体積比、空間の計量 データの分析 | 正確な図形を描けるようにして、視覚的理解を図る。 |

| | |
|----|--|
| 評価 | (観点・方法) 定期考査(知識・技能、数学的な見方や考え方等)、提出物、授業への取組等を総合的に評価する。 |
|----|--|

令和3年度 年間授業計画

東京都立足立西高等学校

| | | | |
|-----|-----------------------------|-----|-----------------------|
| 科目 | 数学A | 2単位 | 教科担当 者 小萱 須江 |
| 対象 | 第1学年 | | |
| 教科書 | 改訂版 新編 数学A (数研出版) | | |
| 副教材 | 改訂版 Study-up ノート 数学A (数研出版) | | |

| | |
|----|--|
| 目標 | <p>場合の数・確率・集合など日常生活と結びついた数学を学び生活に生かせるようにする。 整数の性質に着目することで、規則性を発見する力を身に付ける。 円や三角形の様々な特徴を学び、図形における数学的な考え方を身に付ける。</p> |
|----|--|

| 学期 | 月 | 時間 | 単元 | 内容 | 具体的な指導目標 |
|-------------|----|----|---------|-----------------|---|
| 1 学 期 | 4 | 26 | 場合の数と確率 | 集合とその要素の個数 | “かつ” “または”などの意味や集合で使われる記号を理解させる。 |
| | 5 | | 場合の数と確率 | 場合の数 | 順列と組合せの違いを確認させ、記号を用いて計算できるようにする。 |
| | 6 | | 場合の数と確率 | 確率 | 日常生活における簡単な確率の計算ができるようにして楽しむ。 |
| | 7 | | 場合の数と確率 | 確率 | 独立試行や反復試行をしっかりと理解させ、応用できる能力を身に付けさせる。 |
| 2 学 期 | 9 | 28 | 整数の性質 | 約数と倍数 | 整数の範囲内における約数・倍数を理解し直し、最大公約数、最小公倍数を求められるようにする。 |
| | 10 | | 整数の性質 | ユークリッドの互除法 | 整数の性質を利用し、グループ分けをする視点を理解する。また、計算技能を磨く。 |
| | 11 | | 整数の性質 | 整数の性質の活用 | 整数の性質で学んだ内容を実際の現象に当てはめてみる姿勢を養う。 |
| | 12 | | 平面図形 | 三角形の内心・外心・重心 | それぞれの点の特徴を理解させ内接円や外接円についても学ぶ。 |
| 3 学 期 | 1 | 16 | 平面図形 | チェバの定理とメネラウスの定理 | 定理を理解させ、長さや比についても求値できるようにする。 |
| | 2 | | 平面図形 | 接弦定理と方べきの定理 | 円とその接線及び弦の特徴を学び、幾何学に対する理解を深める。 |
| | 3 | | 平面図形 | 作図・空間図形 | 基本的な作図を利用し、様々な長さを作図が図示できることを示す。 |

| | |
|----|---|
| 評価 | <p>(観点・方法) 定期考査5回のテスト、課題プリントや問題集の提出等、総合的に評価する。</p> |
|----|---|

令和3年度 年間授業計画

東京都立足立西高等学校

| | | | |
|-----|------------------------|-----|---------------|
| 科目 | 化学基礎 | 2単位 | 教科担当 西村 幸也 |
| 対象 | 第1学年 | | |
| 教科書 | 新編 化学基礎 (東京書籍) | | |
| 副教材 | ニューサポート改訂新編化学基礎 (東京書籍) | | |

| | |
|----|---|
| 目標 | 化学的現象に興味・関心をもって、自ら考え、理解できる科学的思考力を養う。 看護医療系・栄養系などへの進学に対応できる基礎力をつける。 |
|----|---|

| 学期 | 月 | 時間 | 単元 | 内容 | 具体的な指導目標 |
|-------------|----|----|---------------------------|----------------------------------|---|
| 1 学 期 | 4 | 26 | ガイダンス 化学と人間生活 物質の構成 | 授業の受け方 身の回りの物質 物質の成分 | 化学と生活のかかわりを理解させる。純物質・混合物の性質の違いを理解させる。 |
| | 5 | | 物質の構成 | 物質の構成元素 物質の三態 原子の構造 | 同素体について理解させる。熱運動によって物質の状態が変わることを理解させる。 |
| | 6 | | 物質の構成 | 電子配置と周期表 イオンとイオン結合 分子と共有結合 | 電子配置でイオンの形や原子価が決まり、イオン結合や共有結合する事を理解させる。 |
| | 7 | | 物質の構成 | 金属と金属結合 化学結合と物質の分類 | 金属結晶の特徴、結晶の種類と特徴を理解させる。 |
| 2 学 期 | 9 | 28 | 物質の変化 | 原子量・分子量・式量 物質質量 | 問題演習を十分に行い、物質量の計算を理解させる。 |
| | 10 | | 物質の変化 | 溶液の濃度 化学反応式とその量的関係 | 問題演習を中心に溶液の濃度・化学反応式とその量的関係を理解させる。 |
| | 11 | | 酸と塩基 | 酸と塩基 水素イオン濃度とpH | 電離度と酸・塩基の強弱について理解させる。pHについては簡単な計算を取り扱う。 |
| | 12 | | 酸と塩基 | 中和反応と塩 中和滴定 | 中和反応を化学反応式で表せるようにする。実験により理解を深める。 |
| 3 学 期 | 1 | 8 | 酸化還元反応 | 酸化と還元 酸化剤と還元剤 | 酸化還元の定義を理解させる。酸化数の問題演習に十分な時間をとる。 |
| | 2 | | 酸化還元反応 | 金属の酸化還元反応 酸化還元反応の応用 | イオン化傾向の小さな金属と強酸の反応、電池の構造について理解させる。 |
| | 3 | | 1年間のまとめ | 1年間の学習事項の復習 | 1年間に学習した事項を復習・確認することで基礎学力を定着させる。 |

| | |
|----|--|
| 評価 | (観点・方法) 定期考査得点・実験レポート・授業プリント・小テストの得点・課題提出・出席状況などをもとにして総合的に評価する。 |
|----|--|

令和3年度 年間授業計画

東京都立足立西高等学校

| | | | |
|-----|-------------------------|------|--------------|
| 科目 | 生物基礎 | 2 単位 | 教科担当 柏倉正伸 |
| 対象 | 第1学年 | | |
| 教科書 | 新編 生物基礎 (数研出版) | | |
| 副教材 | リードLight ノート生物基礎 (数研出版) | | |

| | |
|----|---|
| 目標 | 生物の性質やはたらきの学習を通して、様々な現象を生物学的に考える姿勢を身に付ける。 |
|----|---|

| 学期 | 月 | 時間 | 単 元 | 内 容 | 具体的な指導目標 |
|-------------|----|----|--|-------------------------------------|------------------------------------|
| 1 学 期 | 4 | 26 | 生物の特徴 ・生物の多様性と共通性 | ・生物の多様性, 共通性 ・細胞の構造と性質 | 顕微鏡の使い方, 実験器具の取り扱いに習熟させる。 |
| | 5 | | ・代謝とエネルギー | ・生物の特徴と進化 ・代謝とエネルギー ・代謝と酵素 | 実験を通して生物現象を理解する方法を身につけさせる。 |
| | 6 | | ・光合成と呼吸 遺伝子とそのはたらき ・遺伝子, DNA の構造 | ・光合成, 呼吸 ・DNA の構造 ・DNA と染色体 | 細胞内のミクロな物質・活動が生物の体を維持していることを理解させる。 |
| | 7 | | ・遺伝情報とたんぱく質の合成 ・遺伝情報の分配 | ・たんぱく質の合成 ・細胞分裂と DNA ・細胞と遺伝情報 | 生物個体の形態・性質のもととなる遺伝情報伝達の仕組みを学習させる。 |
| 2 学 期 | 9 | 28 | 生物の体内環境の維持 ・体内環境としての体液 ・腎臓と肝臓による調節 | ・体液の循環 ・血液凝固 ・体液の塩分濃度調節 | 体液循環と内臓の関係から生体維持について理解させる。 |
| | 10 | | ・自律神経系と内分泌による調節 | ・腎臓と肝臓 ・自律神経系 ・生体防御と免疫 | 自律神経系が生物体内の内臓器官を調節する仕組みを理解させる。 |
| | 11 | | ・免疫 植生の多様性と分布 ・多様な植生 | ・自然免疫と獲得免疫 ・免疫と病気 ・植生とその構造 | 免疫と病気の関係を理解させ, 人間の健康について意識させる。 |
| | 12 | | ・植生の移り変わり | ・植生遷移 ・植生の破壊と再生 | 地球上には多様な植生があることを理解させる。 |
| 3 学 期 | 1 | 16 | ・気候とバイオーム 生態系とその保全 | ・日本のバイオーム ・世界のバイオーム ・生態系 | 様々な生物集団(バイオーム)があることを自ら調べる姿勢を養う。 |
| | 2 | | ・生態系とその成り立ち ・物質の循環とエネルギーの流れ | ・生物のつながり ・炭素, 窒素の循環 ・生態系のバランス | 生態系のバランスに関係する要素について考えさせえる。 |
| | 3 | | ・生態系のバランスと保全 | ・人類と生態系 ・地球環境問題 | 生態系の関わる環境問題について継続的な視点を持たせる。 |

| | |
|----|--|
| 評価 | (観点・方法) 定期考査, 提出物 (レポート, ワーク, 演習問題等), 授業への参加状況をもとに総合的に判断する。 |
|----|--|

令和3年度 年間授業計画

東京都立足立西高等学校

| | | | |
|-----|-------------------|-----|------------------------------------|
| 科目 | 体育 | 2単位 | 教科担当 者 関 恵美 秋澤 風作 芝 英晃 |
| 対象 | 第1学年 男女 | | |
| 教科書 | 大修館書店 現代高等保健体育 | | |
| 副教材 | 大修館書店 現代高等保健体育 図説 | | |

| | |
|----|-----------------------------------|
| 目標 | 運動技能の基礎・基本の実践と健康の保持増進及び体力の向上をはかる。 |
|----|-----------------------------------|

| 学期 | 月 | 時間 | 単 元 | 内 容 | 具体的な指導目標 |
|-------------|----------|----|--|-----------------------------------|----------------------------------|
| 1 学 期 | 4 | 26 | 体づくり運動 | 体力を高める運動 | 健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図る。 |
| | 5 6 | | 種目選択学習 (下記より1種目選択) ・陸上競技(2種目) ・器械運動 | 投: ジャベリックスロー 走: 短距離走 マット運動 | 個々の能力や習得程度に応じた授業展開を行う。 |
| | 6 7 | | 水泳 | クロール | クロールの泳力向上。 |
| 2 学 期 | 9 | 28 | 水泳 | 平泳ぎ | 平泳ぎの泳力向上。 |
| | 10 11 | | 種目選択学習 (下記より1種目選択) ・卓球 ・バドミントン ・ソフトテニス ・アルティメット | サーブ・レシーブ・ ボールコントロール スマッシュなど | 個人技能を修得させる。個々の技の習得程度に応じた授業展開を行う。 |
| | 11 12 | | 種目選択学習 (下記より1種目選択) ・卓球 ・バドミントン ・ソフトテニス ・アルティメット | サーブ・レシーブ・ ボールコントロール スマッシュなど | 個人技能を修得させる。個々の技の習得程度に応じた授業展開を行う。 |
| | 12 | | 体育理論 | 体育理論 | 体育理論について理解させる。 |
| 3 学 期 | 1 | 16 | 長距離走 | 3 km ~ 5 km のペース走 | 個々の体調、体力に配慮したペースで走らせる。 |
| | 2 | | マラソン大会 | 男子: 10 km 女子: 6 km | 個々の体調、体力に配慮したペースで走らせる。 |
| | 2 3 | | 種目選択学習 (下記より1種目選択) ・卓球 ・バドミントン ・ソフトテニス ・アルティメット | サーブ・レシーブ・ ボールコントロール スマッシュなど | 個人技能を修得させる。個々の技の習得程度に応じた授業展開を行う。 |
| | 3 | | 体育理論 | 体育理論 | 体育理論について理解させる。 |

| | |
|----|--|
| 評価 | 水泳、持久走、マラソン大会、各単元でのテスト、関心・意欲・態度 出欠・見学 ※水泳、持久走、マラソン大会の補講は必ず受ける必要があります。 |
|----|--|

| | | | |
|-----|---------------------|-----|---------------|
| 科目 | 保健体育（柔道） | 1単位 | 教科担当者 芝 英晃 |
| 対象 | 第1学年 柔道 選択者 | | |
| 教科書 | 大修館書店 現代高等保健体育（改訂版） | | |
| 副教材 | 大修館書店 現代高等保健体育 図説 | | |

| | |
|----|---|
| 目標 | 柔道の特性を理解し、礼法・受身などの基本動作を適切に行えるようにする。 安全に配慮し、互いに協力して練習が行えるようにする。 |
|----|---|

| 学期 | 月 | 曜日 | 単 元 | 内 容 | 具体的な指導目標 |
|---------|--|----|-----|-----------------------------------|-------------------------------------|
| 1 学期 | 4 | 13 | 柔道 | 礼法 | 礼法の意義を理解する |
| | 5 | | 柔道 | 礼法・柔道衣の着方 受 身 (後ろ受身、横受身) | 安全な転倒の仕方を学ぶ。 |
| | 6 | | 柔道 | 受 身 (前受身、前回り受身) | 二人組みで協力して練習する。 さまざまなタイプの受身を練習する。 |
| | 7 | | 柔道 | 評価 | 受身を中心に評価する |
| 2 学期 | 9 | 14 | 柔道 | 1学期の復習 投げ技 (大腰、背負い投げ) | 受身を積極的にとるよう心がける 安全に配慮する |
| | 10 | | 柔道 | 投げ技 (一本背負い投げ、大外刈り) | 打ち込み練習を数多く行い、技の習得を図る。 |
| | 11 | | 柔道 | 投げ技 (大内刈り、支え釣り込み足) 約束稽古、乱取り | 乱取りを数多くおこない、それぞれの得意技を磨く |
| | 12 | | 柔道 | 評価 | 一つ一つの技を正確にかけられるか |
| 3 学期 | 1 | 8 | 柔道 | 寝技 (袈裟固め、横四方固め) | 決めるポイントを正確にできているか |
| | 2 | | 柔道 | 寝技 (上四方固め、肩固め、縦四方固め) 寝技乱取り | 安全に注意して乱取りをおこなう |
| | 3 | | 柔道 | 評価 | 技を正確にできるか |
| 評価 | 受身、投げ技、固め技の技能の習熟程度はどうか。授業に取り組む姿勢はできているか。相手を尊重し安全に注意して練習に取り組んでいるか。出席状況はどうか。 | | | | |

令和3年度 年間授業計画

東京都立足立西高等学校

| | | | |
|-----|-------------------|------|-----------------------|
| 科目 | 体育 | 1 単位 | 教科担当 者 秋澤風作 |
| 対象 | 1 学年 剣道 選択者 | | |
| 教科書 | 大修館書店 現代高等保健体育 | | |
| 副教材 | 大修館書店 現代高等保健体育 図説 | | |

| | |
|----|-----------------------------------|
| 目標 | 運動技能の基礎・基本の実践と健康の保持増進及び体力の向上をはかる。 |
|----|-----------------------------------|

| 学期 | 月 | 時間 | 単 元 | 内 容 | 具体的な指導目標 |
|------|----|------|---------------|---------------------------|----------------------------------|
| 1 学期 | 4 | 13 | オリエンテーション | 剣道の特性 | 剣道の特性を理解させる。 |
| | 5 | | 基本動作 | 礼法 構え 体さばき 各種素振り | 互いに協力して、相手を尊重し、また、礼儀正しく行う態度を育てる。 |
| | 6 | | 技の練習 | 基本打突 | 繰り返し行うことにより正しい動作を身につけさせる。 |
| | 7 | | 技の練習 | 基本打突 | 繰り返し行うことにより正しい動作を身につけさせる。 |
| 2 学期 | 9 | 14 | 基本動作 | 1 学期の復習 | 前期の復習を行う。 |
| | 10 | | 基本動作 技の練習 | 切り返し しかけ技 1 | 切り返しおよびしかけ技を身に付けさせる。 |
| | 11 | | 技の練習 | しかけ技 2 | 切り返しおよびしかけ技を身に付けさせる。 |
| | 12 | 技の練習 | しかけ技 2 | 切り返しおよびしかけ技を身に付けさせる。 | |
| 3 学期 | 1 | 8 | 基本動作 | 切り返し | 前期の復習を行う。 |
| | 2 | | 技の練習 基本の試合 | 切り返し・しかけ技による基本試合 | 勝敗を競う楽しさを味わわせる。 |
| | 3 | | 基本の試合 | 切り返し・しかけ技による基本試合 | 勝敗を競う楽しさを味わわせる。 |

| | |
|----|----------------------------|
| 評価 | 学期ごとのテスト、関心・意欲・態度 出欠・見学 |
|----|----------------------------|

令和3年度 年間授業計画

東京都立足立西高等学校

| | | | |
|-----|----------------|-----|-----------|
| 科目 | 体育 | 1単位 | 教科担当 者 |
| 対象 | 第1学年 ダンス 選択者 | | |
| 教科書 | 大修館書店 現代高等保健体育 | | |
| 副教材 | | | |

| | |
|----|-----------------------------------|
| 目標 | 運動技能の基礎・基本の実践と健康の保持増進及び体力の向上をはかる。 |
|----|-----------------------------------|

| 学期 | 月 | 時間 | 単元 | 内 容 | 具体的な指導目標 |
|-------------|-------------|----|--------------------|---|---|
| 1 学 期 | 4 | 13 | オリエンテーション | ダンスの特性 | ダンスの特性を理解する。 |
| | 5 6 | | フォークダンス | マイム・マイム オクラホマ・ミクサー コロブチカ ジェンガ タタロチカ | フォークダンスの歴史的背景に触れながら、仲間と協調して踊ることができるよう指導する。 |
| | 7 | | フォークダンス | 発表 鑑賞会 | お互いの良さを認め合い、評価するよう指導する |
| 2 学 期 | 9 10 | 14 | 現代的なリズムのダンス | ヒップホップの基本ステップ | リズムの取り方、体の使い方 方を指導する。 |
| | 11 12 | | 現代的なリズムのダンスの 創作 | グループによる創作活動 発表 | 協力して創作するように助 言する。 お互いの良さを認め合い、 評価するよう指導する。 |
| | 1 2 3 | | 創作ダンス | 表現活動 | 自分なりのイメージを持っ て表現を楽しむような場を 作る。 |
| 3 学 期 | 1 | 8 | 創作ダンス | 表現活動 | 自分なりのイメージを持っ て表現を楽しむような場を 作る。 |
| | 2 | | 創作ダンス | 表現活動 | 自分なりのイメージを持っ て表現を楽しむような場を 作る。 |
| | 3 | | 創作ダンス | 表現活動 | 自分なりのイメージを持っ て表現を楽しむような場を 作る。 |

| | |
|----|--|
| 評価 | 班員と協力して活動ができているか（観点・方法） 感じを込めて踊ったり、みんなで楽しく踊ったりできているか。 自分なりのイメージを持ち、それを表現しているか。 |
|----|--|

令和3年度 年間授業計画

東京都立足立西高等学校

| | | | |
|-----|---------------------|------|-------------------------------------|
| 科目 | 保健 | 1 単位 | 教科担当 者 関 恵美 下村 智子 秋澤 風作 |
| 対象 | 第1学年 | | |
| 教科書 | 大修館書店 現代高等保健体育（改訂版） | | |
| 副教材 | 大修館書店 現代高等保健体育 図説 | | |

| | |
|----|--|
| 目標 | 様々な社会の変化に対応して、健康を保持増進させるためには、人々が適切な生活行動を選択し実践すること及び環境を改善していく努力が重要であることを理解できるようにする。 |
|----|--|

| 学期 | 月 | 時間 | 単 元 | 内 容 | 具体的な指導目標 |
|-------------|----|----|----------|---|---|
| 1 学 期 | 4 | 13 | ・現代社会と健康 | <ul style="list-style-type: none"> 私たちの健康のすがた 健康のとらえ方 | <ul style="list-style-type: none"> 健康の考え方を理解させる。 一人一人が実行できる適切な生活習慣を理解させる。 |
| | 5 | | ・現代社会と健康 | <ul style="list-style-type: none"> 健康と意思決定・行動選択 健康に関する環境づくり 生活習慣病とその予防 | <ul style="list-style-type: none"> 健康の考え方を理解させる。 一人一人が実行できる適切な生活習慣を理解させる。 |
| | 6 | | ・現代社会と健康 | <ul style="list-style-type: none"> 食事と健康 運動と健康 休養、睡眠と健康 | <ul style="list-style-type: none"> 適切な運動、食生活、休養の意義を考える。 喫煙が健康に与える影響について理解させる。 |
| | 7 | | ・現代社会と健康 | <ul style="list-style-type: none"> 喫煙と健康 | <ul style="list-style-type: none"> 喫煙が健康に有害な習慣であり、様々な病気の原因になっていることを理解させる。 |
| 2 学 期 | 9 | 14 | ・現代社会と健康 | <ul style="list-style-type: none"> 飲酒と健康 薬物乱用と健康 | <ul style="list-style-type: none"> アルコールには依存性があることを伝える。 体験者の手記なども紹介する。 |
| | 10 | | ・現代社会と健康 | <ul style="list-style-type: none"> 現代の感染症 感染症の予防 性感染症、エイズとその予防 | <ul style="list-style-type: none"> 特に性感染症とエイズについて正しい知識を学ばせる。 正しい認識を身に付けさせる。 |
| | 11 | | ・現代社会と健康 | <ul style="list-style-type: none"> 欲求と適応機制 心身の相関とストレス ストレスへの対処 | <ul style="list-style-type: none"> 欲求とのつきあい方、心身相関のしくみを理解させる。 ストレスの対処法を学ばせる。 |
| | 12 | | ・現代社会と健康 | <ul style="list-style-type: none"> 心の健康と自己実現 | <ul style="list-style-type: none"> 心の健康の大切さを学ばせる。 自己実現のための道すじを示す。 |
| 3 学 期 | 1 | 8 | ・現代社会と健康 | <ul style="list-style-type: none"> 交通事故の現状と要因 交通社会における運転者の資質と責任 | <ul style="list-style-type: none"> 交通事故対策を理解させる。 交通事故は若者と高齢者に多い実情について 二輪車の事故について |
| | 2 | | ・現代社会と健康 | <ul style="list-style-type: none"> 安全な交通社会づくり 応急手当の意義とその基本 | <ul style="list-style-type: none"> 応急手当の意義について理解させる。 |
| | 3 | | ・現代社会と健康 | <ul style="list-style-type: none"> 心肺蘇生法 日常的な応急手当 | <ul style="list-style-type: none"> 心肺蘇生法を身に付けさせる。 応急手当を身に付けさせる。 |

| | |
|----|-------------------|
| 評価 | 学期末考査・平常点により評価する。 |
|----|-------------------|

| | | | | |
|-----|-----------------|-----|-----------|-------|
| 科目 | 芸術・音楽 I | 2単位 | 教科 担当者 | 古城 利史 |
| 対象 | 第1学年 | | | |
| 教科書 | MOUSA I | | | |
| 副教材 | 高校生のための 音楽研究ノート | | | |

| | |
|----|--|
| 目標 | 歌唱・・・歌唱に対する意欲を育成し、発声の基本や視唱力の育成、さらに曲種にあった歌い方を工夫させる 器楽・・・ギターの基礎を学習させ、アンサンブルの楽しさを体験する。 鑑賞・・・表現との関連をはかりながら、楽曲の歴史的背景特徴を理解させる。 |
|----|--|

| 学期 | 月 | 時間 | 単元 | 内容 | 具体的な指導目標 |
|-------------|----|----|--------------------|----------------------|--------------------------|
| 1 学 期 | 4 | 26 | 歌唱の基礎 | 音符に慣れる。 | 音符の長さの違いを歌いながら理解できるようにする |
| | 5 | | 聴音、校歌 | 校歌を覚える。 | 音の違いを歌いながら聞き取る |
| | 6 | | 外国語歌曲 | イタリア歌曲「Caro mio ben」 | 発声や響きに注意しながら、歌唱する。 |
| | 7 | | 映画ミュージカル | ミュージカルの内容を理解する。 | ミュージカルとは何かを知る |
| 2 学 期 | 9 | 28 | 2部合唱 ヴォイスアンサンブル | 野ばら 「野菜の気持ち」 | 休符に注意し、自分のパートに責任を持つ |
| | 10 | | 2部合唱 ヴォイスアンサンブル | 野ばら 「野菜の気持ち」 | グループでの完成度を高める |
| | 11 | | 器楽 | 合唱曲 ギター | 楽器の仕組みを理解し演奏する |
| | 12 | | 器楽 | 合唱曲 ギター | 合奏する難しさや楽しさを味わう |
| 3 学 期 | 1 | 16 | 楽典 | 音符や休符の名称や長さを学習する | 音符の長さの違いを理解できるようにする |
| | 2 | | 楽典 | ドイツ語音名 反復記号 | 演奏に必要な知識を得る |
| | 3 | | 映画ミュージカル | ミュージカルの内容を理解する | ミュージカルとは何かを知る |

| | |
|----|---|
| 評価 | (観点・方法) 実技教科のため、普段の取り組みへの授業態度も平常点として加点する。 歌唱や器楽など実技テストを行う。 |
|----|---|

| | | | |
|-----|--------|------|-------------|
| 科目 | 美術 I | 2 単位 | 教科担当者 大竹 |
| 対象 | 第1 学年 | | |
| 教科書 | 高校美術 1 | | |
| 副教材 | なし | | |

| | |
|----|--|
| 目標 | 1 創造的な表現活動に必要な知識・技能を習得し、各自の制作に積極的に生かしていくことができる。 2 社会や自己を深く見詰め、個性豊かな主題を生成させる。 3 鑑賞の能力を伸ばし、作品に対する自己の考えを積極的に発表できるよう言語活動を取り入れるとともに、美術作品や美術文化を大切にする姿勢を育成する。 |
|----|--|

| 学期 | 月 | 時間 | 単元 | 内 容 | 具体的な指導目標 |
|-------------|----|----|----------------------------|--|---|
| 1 学 期 | 4 | 26 | 古典から現代アート | 古典から現代までの作品を鑑賞し、作品の内容と良さ、多様性を積極的に味わっていく。 | ・作品の内容や技法、時代と地域、作者についてなど、自らの考えや調べた内容を発表することを通して、主体的な鑑賞の姿勢を育てる。 |
| | 5 | | | | |
| | 6 | | | | |
| | 7 | | | | |
| 2 学 期 | 9 | 28 | ドローイング講座 | 1. なんてことのない描画材で描くことに興味関心を持つ。 2. 偶然や仕事の質、差についてのアイデアを練る。 3. 形の加工とともに取り扱う道具も工夫して制作する。 | ・地域や環境、時代等の違いによる表現の特色を知り、ドローイングに対する生徒の興味関心を高める。 ・アイデアを展開することで多様な制作方法を導き出す。 ・道具の安全で効果的な使用を習得させる。 |
| | 10 | | | | |
| | 11 | | コンセプチュアル、インスタレーション、パフォーマンス | 1. 普段なじみのない表現様式で制作し今までと違う視野、視覚を獲得する。 2. 鑑賞し、作品の内容と良さを積極的に味わっていく。 | ・身体を動かし、オブジェを消した表現などによって作品のありようや自分の伝えたい内容や技法についてなど自らの考え方を育てる。 |
| | 12 | | | | |
| 3 学 期 | 1 | 16 | 鉛筆で描く | 1. 鉛筆の使い方と生かし方 2. 形体・色・質感・立体感・空間の表現 3. 自他の作品の良さを味わう | ・鉛筆の削り方、安全なカッターの使い方について理解させる。 ・各自の見た印象を生き生きと表現させるよう留意する。 |
| | 2 | | | | |
| | 3 | | | | |

| | |
|----|--|
| 評価 | (観点・方法) ・毎回の授業の学習状況と提出作品で各学期の評価を行う。 ・美術の観点別学習状況の評価を利用する。 |
|----|--|

令和3年度 年間授業計画

東京都立足立西高等学校

| | | | | |
|-----|----------------|------|-------------------|--------|
| 科目 | 書道 I | 2 単位 | 教科 担 当 者 | 大河原 達也 |
| 対象 | 第1学年 | | | |
| 教科書 | 書道 I (教育出版) | | | |
| 副教材 | ペン習字の基礎 (教育図書) | | | |

| | |
|----|---|
| 目標 | 古典作品の臨書・鑑賞により、様々な運筆法・表現法を習得する。 書を表現することを楽しめるようにする。 |
|----|---|

| 学期 | 月 | 時間 | 単 元 | 内 容 | 具体的な指導目標 |
|-------------|----|----|--------------|---------------------|--|
| 1 学 期 | 4 | 26 | 楷書の学習 | 楷書の基本点画の学習、 氏名練習 | 書写と書道の違いを理解できる ようにする。 |
| | 5 | | 楷書の学習 | 孔子廟堂碑臨書 | それぞれの古典作品の運筆 法・表現法を習得できるよう にする。 |
| | 6 | | 楷書の学習 | 九成宮醜泉銘臨書 | それぞれの古典作品の運筆 法・表現法を習得できるよう にする。 |
| | 7 | | 楷書の学習 | 雁塔聖教序臨書 | それぞれの古典作品の運筆 法・表現法を習得できるよう にする。 |
| 2 学 期 | 9 | 28 | 行書の学習 | 行書の基本点画の学習 | 行書の特性を理解したのちに それぞれの古典作品の運筆・ 表現法を習得できるよう指導 する。 |
| | 10 | | 行書の学習 | 蘭亭序の臨書 | 行書の特性を理解したのちに それぞれの古典作品の運筆・ 表現法を習得できるよう指導 する。 |
| | 11 | | 行書の学習 | 蘭亭序の臨書 | 行書の特性を理解したのちに それぞれの古典作品の運筆・ 表現法を習得できるよう指導 する。 |
| | 12 | | 行書の学習 | 風信帖の臨書 | 行書の特性を理解したのちに それぞれの古典作品の運筆・ 表現法を習得できるよう指導 する。 |
| 3 学 期 | 1 | 16 | 仮名の学習 | 連綿の学習 | 小筆の運筆法、漢字と仮名の 運筆法の違いなどを習得でき るよう指導する。 |
| | 2 | | 仮名の学習 | 蓬萊切臨書 | 小筆の運筆法、漢字と仮名の 運筆法の違いなどを習得でき るよう指導する。 |
| | 3 | | 漢字仮名交じりの書の学習 | 詞や短歌などの表現 | 漢字と仮名をバランスよく表 現できるようにする。 |

| | |
|----|---|
| 評価 | (観点・方法) 様々な表現の特徴を理解し、また表現できているか。作品・授業態度・出欠で評価する。 |
|----|---|

令和3年度 年間授業計画

東京都立足立西高等学校

| | | | |
|----------------------------|--|------|-------------------|
| 科 目 | コミュニケーション英語 I | 3 単位 | 教科 担 当 者 |
| 対 象 | 第1 学年 | | |
| 教科書 | All aboard! English communication I | | |
| 副教材 | All aboard! English communication I Workbook | | |
| 井上 辻本 西野 西塚 金山 | | | |

| | |
|-----|--|
| 目 標 | 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。また、情報や考えなどを的確に理解し相手へ伝える基礎的な能力を養う。 |
|-----|--|

| 学期 | 月 | 時間 | 単 元 | 内 容 | 具体的な指導目標 |
|-------------|----|----|----------|-------------|----------|
| 1 学 期 | 4 | 39 | Lesson1 | 世界の家 | ① 過去形 |
| | 5 | | Lesson2 | 錦織 圭 | ① 進行形 |
| | 6 | | Lesson3 | 世界に羽ばたく日本文化 | ① 助動詞 |
| | 7 | | Lesson4 | 夢のような絶景 | ① To 不定詞 |
| 2 学 期 | 9 | 42 | Lesson5 | それぞれの夢 | ① 動名詞 |
| | 10 | | Lesson6 | 奇想天外な浮世絵師 | ① 受け身 |
| | 11 | | Lesson7 | 皇帝ペンギンの世界 | ① 現在完了形 |
| | 12 | | Lesson8 | 若田光一 | ① it の用法 |
| 3 学 期 | 1 | 24 | Lesson9 | 海の向こうからの贈り物 | ① 関係副詞 |
| | 2 | | Lesson10 | すべての子どもに教育を | ① 比較表現 |
| | 3 | | Reading | “Alone” | 物語の読解 |

| | |
|-----|---|
| 評 価 | (観点・方法) 課題テスト、定期考査(中間・期末)、単語テスト、提出物、授業態度(授業への取り組み)を総合して評価する。 |
|-----|---|

令和3年度 年間授業計画

東京都立足立西高等学校

| | | | |
|-----|---|------|--|
| 科目 | 英語表現 I | 2 単位 | 教科担当 者 小林 紀代子 西塚 弘循 西野 誠一 前田 りえ |
| 対象 | 第1 学年 | | |
| 教科書 | SELECT English Expression I | | |
| 副教材 | SELECT English Expression I ワーク Listening Platform I | | |

| | |
|----|--|
| 目標 | 「読む、聴く、書く、話す」の4 技能を総合的に身につける。また、異文化理解に努める。 基本的な文法を理解し、身近な話題について英語で表現できるようにする。 |
|----|--|

| 学期 | 月 | 時間 | 単 元 | 内 容 | 具体的な指導目標 |
|----------|----|----|------------------------|-----------------|------------------------|
| 1 学 期 | 4 | 18 | Lesson 1 | 現在形 | 自己紹介ができるようになる |
| | 5 | | Lesson 2 Lesson 3 | 過去形 進行形 | 過去形や進行形を使って表現できる |
| | 6 | | Lesson 4 Lesson 5 | 未来の表現 現在完了形 | 未来のことや、現在完了形を使って表現できる |
| | 7 | | Lesson 6 | 現在完了 | 現在完了形を使って表現できる |
| 2 学 期 | 9 | 21 | Lesson 7 Lesson 8 | 助動詞 | 助動詞を使った表現ができる |
| | 10 | | Lesson 9 Lesson 10 | 不定詞 | 不定詞を使った表現ができる |
| | 11 | | Lesson 11 Lesson 12 | 動名詞 受動態 | 動名詞、受動態を使った表現ができる |
| | 12 | | Lesson 13 | 分詞 | 分詞を使った表現ができる |
| 3 学 期 | 1 | 9 | Lesson 14 Lesson 15 | 関係代名詞、関係副詞 | 関係代名詞、関係副詞を使った表現ができる |
| | 2 | | Lesson 16 Lesson 17 | 比較 知覚動詞、使役動詞 | 比較、知覚動詞、使役動詞を使った表現ができる |
| | 3 | | Lesson 18 | 仮定法過去 | 仮定法過去を使った表現ができる |

| | |
|----|---|
| 評価 | (観点・方法) 定期考査の得点と平常点 (ワーク等の提出物、課題、授業態度等) による。 |
|----|---|

令和3年度 年間授業計画

東京都立足立西高等学校

| | | | |
|-----|---------------------------------|------|------------------------|
| 科 目 | 社会と情報 | 2 単位 | 教科担当 者 文室 直也 |
| 対 象 | 第1 学年 | | |
| 教科書 | 数研出版「社会と情報 Next」 | | |
| 副教材 | 実教出版「パーフェクトガイド情報 Office2019 対応」 | | |

| | |
|-----|---|
| 目 標 | (ア) Microsoft Office を中心としたソフトウェアの操作スキルを身につけ、情報活用能力を養う。 (イ) インターネットによる情報検索・ネチケット・著作権などの情報モラルについて学ぶ。 (ウ) 情報社会の光と影を理解し、情報社会へ参画できる態度を養う。 |
|-----|---|

| 学期 | 月 | 時間 | 単 元 | 内 容 | 具体的な指導目標 |
|-------------|----|----|---|--|--|
| 1 学 期 | 4 | 26 | ・オリエンテーション ・メディア ・インターネット検索 | ・アンケート等 ・情報と情報社会 ・メディアとその特徴 | ・到達度を確認する ・PC 教室を使用する ・Web 教材を活用する |
| | 5 | | ・情報社会 ・Windows 基本操作 ・Word 文書作成 | ・インターネット検索 ・タイピング練習等 ・文書作成 | ・Web 検索力のアップ ・電子メールの活用 ・タイピング練習を多くする ・生徒の技量を確認する |
| | 6 | | ・情報モラル ・Word 文書作成 ・実技試験－Word | ・セキュリティ・法律 ・書式設定等 ・画像・表などの挿入 ・実技試験－Word | ・具体例を多く取り上げ抽象的にならないように注意 ・ワープロ検定3級レベル合格できる技量を指導する |
| | 7 | | | | |
| 2 学 期 | 9 | 28 | ・デジタル情報 ・Excel 作表と処理 | ・デジタル表現 ・作表と書式 ・関数処理 | ・デジタル情報の表し方 ・音・画像のデジタル表現 ・作表・関数処理・グラフ作成 |
| | 10 | | | | |
| | 11 | | ・情報の活用 ・Excel 処理 ・実技試験－Excel | ・表現と伝達 ・関数処理 ・実技試験 | ・情報の発信方法の理解 ・プレゼンテーションの注意点 ・絶対参照・IF 関数まで取りあげる |
| | 12 | | | | |
| 3 学 期 | 1 | 16 | ・情報通信ネットワーク ・情報社会の構築 ・PowerPoint 作成 ・プレゼンテーション | ・インターネットのしくみ ・問題解決 ・スライドの作成 ・実技試験－プレゼンテーション | ・通信プロトコルの理解 ・パケット通信の理解 ・テーマに基づき情報を収集・整理し、表現の工夫を行い、情報を発信する力を身につけさせる |
| | 2 | | | | |
| | 3 | | | | |

| | |
|-----|--|
| 評 価 | (観点・方法) 授業への取り組み、課題、実技試験、定期考査等を総合して評価する |
|-----|--|

令和3年度「総合的な探究の時間」の年間指導計画 [1学年]

1 単位時間の時間 (50) 分

| 学期 | 月 | 指導項目 | 指導内容 | 評価計画 | 配当時間 |
|----------|----|----------------------------|--|---|--------------------|
| 1 | 4 | オリエンテーション | ・「総合：人間と社会」の年間計画や方針を理解させる。 | [評価の観点] 自他の尊重、自律・忍耐に対する関心・意欲・態度、思考・判断・表現、知識、理解 | 1 |
| | 5 | 人間関係を築く | ・ペアワークやグループワークで意見交換をする。その際、他者の意見を尊重し、ものの見方・考え方の視野を広めることに留意する。また、人格の尊重、自己肯定感を育てる。 | [評価資料] 小論文、職業講話の感想文、ペアワーク・グループワークの意見等 | 2 |
| | 6 | 人間関係を築く 働くことの意義 | ・上記のまとめ、発表をする。 ・働くことの意義を踏まえ社会貢献や地域貢献を学ばせる。ブレインストーミングで意見を出し合う。まとめと発表をする。 | [評価の観点] 働くことの意義を踏まえた社会貢献や地域貢献に対する意欲・関心・思考、知識・理解 | 3 |
| | 7 | 働くことの意義 インターンシップの意義と準備① | ・各事業所での体験活動の目標設定と事業所の選定をする。 | | 2 |
| 2 | 9 | マナーと社会のルールについて考える。 | ・社会人としてのマナー、働くときやインターンシップをする上でのマナーを考える。ペアワークやブレインストーミングで意見を出し合う。 | [評価資料] 就業体験に向けてのプランニング、インターンシップ予定先の情報収集・資料整理、社会人としてのマナー意識、意見交換、インターンシップにおける日誌、礼状、報告書 | 3 |
| | 10 | インターンシップの意義と準備② | ・奉仕活動に取り組む姿勢も養うために、奉仕とは何か、奉仕に関わる活動を理解する。 | | 18 (体験) |
| | 11 | インターンシップの実施 | ・インターンシップ先の選択。 ・『計画書の作成』『活動日誌』の諸注意をする。 ・3日間の諸注意をする。 | | |
| | 12 | インターンシップの反省と改善について | ・インターンシップ先への礼状。 ・自己及び企業の社会貢献、自己肯定感等を『自己評価とまとめ』にまとめる。 | | 2 |
| 3 | 1 | 地域社会を築く | ・インターンシップを踏まえ、主体的に地域社会へ参画する方法を考える。その際、ペアワーク、グループワークを通して学ぶ。 | [評価の観点] 社会連帯、公正、寛容、共生に対する関心・意欲・態度、思考・判断・表現、知識・理解 | 3 |
| | 3 | 「人間と社会」のまとめ | ・1年間学んだ『活動の成果』を積極的に発表しよう。 | 年間活動報告 | 1 |
| 配当時間数の合計 | | | | | 35 体験 (18時間) |

1 学年

令和3年度オリンピック・パラリンピック教育の年間指導計画

| 学期 | 月 | 教科・科目等 | 内容 | 配当時間 |
|----------|---------------------------|--------|--|------|
| 1 | 4 | 国語 | 古文を通じて伝統的な言語文化への興味・関心を広げる | 1 |
| | | 数学 | 場合の数と確率（参加数によるリーグ戦・トーナメント戦のゲーム数） | 1 |
| | | 保健体育 | 体力の向上方法を学ぶ | 2 |
| | 5 | 情報 | インターネットを通じた海外の情報収集の仕方を学ぶ | 2 |
| | | 保健体育 | 武道「柔道・剣道」日本の伝統文化・特有の作法を学ぶ 「ダンス」海外のダンスに触れる | 2 |
| | 7 | 特別活動 | 体育祭の企画・運営を学び実践に活かす | 2 |
| 地理歴史 | 東アジアの生活・文化について学ぶ | 2 | | |
| 2 | 9 | 地理歴史 | 東南アジアの生活・文化 | 2 |
| | | 地理歴史 | ヨーロッパの生活・文化 | 2 |
| | 10 | 地理歴史 | 南北アメリカの生活・文化 | 2 |
| | | 地理歴史 | オーストラリアの生活・文化 | 2 |
| | | 外国語 | 困っている人を助ける | 2 |
| 国語 | 漢文を通じて、伝統的な言語文化への興味・心を広げる | 1 | | |
| 3 | 1 | 理科 | 生態系とその保全（日本と世界のバイオーム） | 2 |
| | | 保健体育 | 持久力を高める運動の実際 | 4 |
| | | 特別活動 | マラソン大会の企画・運営を学び実践にいかす | 2 |
| | 2 | 外国語 | 普段の英会話でよく使う表現、スピーチでの表現を学ぶ | 4 |
| 配当時間数の合計 | | | | 35 |